

試験・成績について

(1) 試験について

試験は科目担当者が、筆記試験、レポート試験、課題作品提出、合評、口頭試問等により行います。試験の実施については、科目の到達目標により時期が異なります。

保留該当者試験

保留該当者試験は、やむを得ない理由で単位の修得が困難であると科目担当者が判断した者に対して行われます。

①保留該当者発表（前期は8月・後期は2月）

科目担当者が成績保留【W】とした科目については再度課題を提出することで再評価を受けることができます。

対象科目はSeian Active Portal（成安Aポータル）で確認ができます。

②保留該当者試験（前期は8月・後期は2月）

各学期1回行われます。受験する場合は、該当科目について教学課窓口で手続きをして各担当者に再評価の依頼を行います。

手続きを済ませないで課題を直接教員に提出した場合は無効となります。

手続き1) 受験願いの提出 及び受験料納付（1科目2,000円）

手続き2) 課題提出・試験受験

注意事項

- ・本人以外（代理）の課題・レポート提出は一切受けません。また、必ず学生証を提示してください。
- ・提出期間を超えての受付はしません。
- ・事務室窓口で受験手続きを行っていない場合は提出物の受け付けはしません。
- ・郵送・宅配便等による課題・レポートの提出は一切受けません。
- ・手続きを済ませないで課題を直接教員に提出した場合は無効となります。
- ・教員指定のメールアドレスやサーバに課題を直接提出する場合も、事務室（教学課）窓口での手続きが必要になります。窓口への提出物の指定がない場合でも、課題のアップロード画面やメール送信画面が確認できる印刷物の提出が必要になります。

* 保留該当者試験を受験しても学習目標の最低限の理解が得られていないと担当者が判断した場合は不合格【D】となります。

(2) 評価

①成績通知書等に表示する記号は、次のとおりです。

評価	素点	評価基準の目安
S（秀）	100～90	学習目標の内容を理解し修得したものと認められる特に秀でた成績
A（優）	89～80	学習目標の内容を理解し修得したものと認められる優れた成績
B（良）	79～70	学習目標の根幹的な部分は理解し修得したものと認められる妥当な成績
C（可）	69～60	学習目標の最低限の理解は得られたものと認められる成績
W （保 留）	成績保留	保留該当者試験は、やむを得ない理由で単位の修得が困難であると科目担当者が判断
D （不 可）	59以下	学習目標の最低限の理解が得られていないと認められる成績
N （認 定）	認 定	*既修得単位 認定 *一括認定 *指定した資格検定合格者への単位認定

(3) G P A制度について

履修指導にいかすためにG P A（Grade Point Average）の制度を導入します。詳細については、9頁で紹介します。

(4) 成績発表

履修科目の成績は、学修状況の記録として単位を修得できなかった科目も含め各学期終了時にSeian Active Portal（成安Aポータル）で発表します。また、学期ごとに保証人にも通知します。

成績評価について確認事項がある場合は、指定の期間内に所定の方法で申し出ることができます。

期間については成績発表時にご案内します。

進級・卒業について

(1) 進級について

① 1 年次から 2 年次への進級

以下の判定基準をすべて満たす必要があります。

- a) 領域受講指定科目（所属する領域が受講指定する専門導入科目及び芸術応用科目）の修得単位数が 8 単位以上であること。
- b) 総修得単位数が 16 単位以上であること。

② 3 年次から 4 年次への進級

以下の判定基準をすべて満たす必要があります。

- c) 領域受講指定科目（所属する領域が受講指定する専門導入科目及び専門基盤科目、所属する領域が受講指定する芸術応用科目）の修得単位数が 44 単位以上であること。
- d) 総修得単位数が 76 単位以上であること。

（在学期間が 2.5 年で、領域受講指定科目（所属する領域が受講指定する専門導入科目及び専門基盤科目、所属する領域が受講指定する芸術応用科目）の修得単位数が 44 単位以上で、総修得単位数が 52 単位以上の場合は進級を可とすることが出来る）

(2) 卒業について

本学に 4 年以上在学し、卒業に必要な単位数を修得しなければなりません。（卒業に必要な単位数については P.13 に記載）

(3) 卒業の時期について

- ① 卒業の時期は、後期末（3 月）または前期末（9 月）です。
- ② 後期末（3 月）：後期終了時において卒業要件を充足した場合、卒業とします。
卒業判定結果については、2 月下旬に保証人宛に通知します。
- ③ 前期末（9 月）：前期終了時において卒業要件を充足した場合、卒業とします。
卒業判定結果については、9 月上旬に保証人宛に通知します。

卒業見込み証明書発行基準

4 年次に進級した学生で一定の科目・単位数の修得要件を満たした者に卒業見込証明書を発行します。

① 卒業見込み者とは

卒業見込者とは、在学 3 年次終了時の修得した単位数および 4 年次に卒業要件を満たす履修登録をおこなったことが確認された者とします。

② 判定時期について

本学はセメスター制を採用しているため「卒業見込判定」を 4 年次の前期及び後期におこないます。

前期の判定では、前期の成績および後期の履修登録が確定していないため暫定的な判定となります。（9 月卒業は除く）

判定対象	判定時期	判定対象卒業時期
4 年次前期	5 月初旬（前期履修登録終了時）	9 月卒業・3 月卒業
4 年次後期	10 月初旬（後期履修登録終了時）	3 月卒業

成安造形大学GPAについて

GPAとは、Grade Point Average（成績加重平均値）のことで、各科目の評点（100点満点）をグレードポイントに換算しなおし、その合計を科目の総単位数で割り、1単位のグレードポイントの平均値を算出するものです。

高校まではすべての学生が同じ教科・科目を履修しますから、単純に成績を比較できました。大学では、個々の学生の所属領域（コース）や目標に応じて、履修する科目を選択する自由度が高く、異なる科目を修得した様々な学生を単純に比較することができません。多様な学習環境を持つ大学では「学ぶ量」だけではなく「学ぶ質」を端的に評価できる指標が必要であり、GPAはそれを提供する手段です。専門性や就学目標からくる履修状況の違いを吸収し、公平さを与えながら学業成績評価の指標として使われるものであり、現在多くの大学でこのポイントを活用して大学での学びを確かなものにする動きがあります。

GPAは各学期ごとにSeian Active Portal（成安Aポータル）で確認することができます。

学期ごとのGPAを確認することでその学期の学修状況を確認できます。GPAが高かった場合は、次学期の履修登録単位数を増やすなど学修の幅をひろげ、GPAが低かった場合は、履修登録単位数を減らすなど学修改善の機会としてください。

①履修登録したすべての科目を対象に算出します。単位を修得できなかった不合格科目も成績に加算されます。従って不合格科目が多いとそれだけGPAが低くなります。ただし、履修を取り消した科目、認定科目、単位互換事業科目並びに卒業要件対象外の資格課程必修科目は、算出対象から除きます。

②GPA算出について

素点	評価	グレードポイント
100～90	S（秀）	4
89～80	A（優）	3
79～70	B（良）	2
69～60	C（可）	1
59点以下	D（不可）	0
認定科目		対象外
資格課程必修科目		対象外

$$\text{GPA} = \frac{\text{Sの修得単位数} \times 4.0 + \text{Aの修得単位数} \times 3.0 + \text{Bの修得単位数} \times 2.0 + \text{Cの修得単位数} \times 1.0}{\text{総履修登録単位数（「D」の単位数含む）}}$$

③学修指導について

本学では、各学期のGPA数値が1.5未満の学生に対して、個別に履修指導を行い履修計画の見直しを行います。

また4学期連続してGPAが1.0未満の学生に対して学長が退学勧告を行います。

④その他GPAの利用について

- ・本学の特待生の適正審査の資料
- ・外国人留学生の授業料減免、学修状況確認に関する審査資料
- ・日本学生支援機構の奨学金を継続して受給又は貸与するための適正審査の学力基準
- ・就職や進学で成績順位の掲示を求められる場合は、学年別のGPAによる成績順位を算出します。